

Press Release

2013年9月12日
メドピア株式会社

「バルプロ酸の投与を一部禁止するFDAのアラート」について 9割以上の医師が「知らなかった」と回答

医師約6万人が参加する医師専用サイト「MedPeer」(メドピア、<https://medpeer.jp/>) を運営するメドピア株式会社<東京都渋谷区、代表 石見陽 (医師)>は、会員医師を対象に「バルプロ酸の投与を一部禁止するFDAのアラート」についてのアンケートを実施し、以下のとおり、結果を取りまとめました。

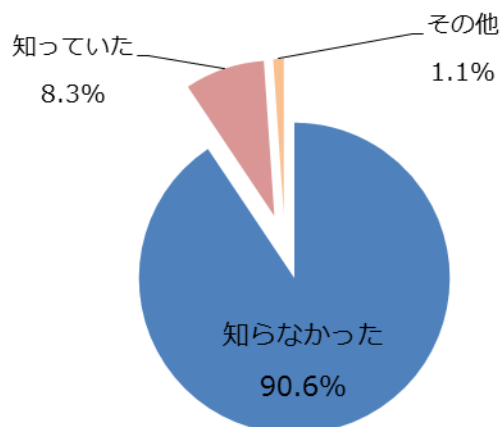
医師専門サイトMedPeer調査結果：「バルプロ酸の投与を一部禁止するFDAのアラート」について（総回答：2,854人）

順位	回答	回答数(人)	占有率
1	知らなかった	2,586	90.6%
2	知っていた	237	8.3%
3	その他	31	1.1%
-	合計	2,854	100.0%

サマリー：

- 医師専門サイトMedPeer（メドピア）に登録する医師（6万人以上）を対象に「**バルプロ酸の投与を一部禁止するFDAのアラートをご存知でしたか？**」という質問をしたところ、**2,854**件の回答が寄せられた。
- 90.6%の医師が「知らなかった」と回答した。「処方する機会がない」「片頭痛予防にバルプロ酸を使うことはない」というコメントが散見される。また、「片頭痛に適応があると知らなかった」という声もあった。
- 「知っていた」という回答は、8.3%。メール、勉強会、Webサイト、医薬品製品情報などで確認しているようだ。「アラートが出る前から胎児に対する悪影響は有名」「妊娠の可能性のある女性患者には極力処方しないようにしている」といったコメントがみられた。

▼総合結果



n=2,854 MedPeer調べ

回答コメント（回答一部を抜粋）

「知らなかった」 2,586件

- ・処方する機会がないと知らないことが多いです。(40代、整形外科・スポーツ医学)
- ・妊婦の診療をすることも少なく、偏頭痛の治療に使えることを知りませんでした。(30代、腎臓内科・透析)
- ・バルプロ酸を処方すること自体がほとんど無いので知りませんでした。(30代、総合診療)
- ・あまり使用しない薬剤でもあり知りませんでした。(60代、一般内科)
- ・普段VPAを使う立場のものですがそもそも片頭痛に適応があるとは知りませんでした。(30代、精神科)
- ・高齢者に対する使用しか経験がない(50代、一般内科)
- ・800mgで危険かどうかを線引きしている事までは知っていましたが、アメリカでは禁止するようになったのは知りませんでした。(50代、神経内科)
- ・当科的には投与する必要がない薬だと思います。それぞれの専門に紹介すると思います。(50代、泌尿器科)
- ・FDAのアラートは知りませんでした。最近ではてんかんでもVPAは用いないようにしているので、あまり影響はありません。(30代、神経内科)
- ・このニュースは知らなかったですが、妊婦さんには処方を避けています。(30代、精神科)
- ・バルプロ酸や関連薬剤の情報はかなり見ていたつもりですが、記憶にありませんでした。(50代、産業医)
- ・抗てんかん薬は精神科の医師の指示でもらっているので、有益性が上回るという理論で使用していたが、アラートが出ていることは知らなかった。(50代、産婦人科)
- ・知りませんでした。偏頭痛ならトリプタン製剤しか使わなくなっていますし、そもそも産婦人科がないため、妊婦をみることもまれです。(60代、一般内科)
- ・片頭痛患者での情報は知らなかったが、元々、妊娠予定のてんかん患者では、バルプロ酸は避けるべき薬剤です。(50代、神経内科)

「知っていた」 237件

- ・今年5月の神経学会では話題でしたね。ちょうど日本の頭痛診療ガイドラインの改訂時期でもありましたので。(50代、製薬医学)
- ・メールで注意書きが送られていました。(50代、神経内科)
- ・バルプロ酸にかんしては、発売された頃から妊婦さんへの投与は可能な限り控えています。(50代、一般内科)
- ・以前から妊婦には処方しないようにしています。(50代、一般外科)
- ・VPAが胎児への危険が高い薬剤であることは教科書にも記載されています。(50代、一般内科)
- ・知っていたし以前より妊婦への投与は行っていません。(50代、小児科)
- ・胎児の奇形率の他、IQ低下のデータもあることから、てんかん患者でもなんとか600mg以内に納めるように気をつけています。(30代、精神科)
- ・アラートが出る前から胎児に対する悪影響は有名であったので、特に大騒ぎするほどの事はないと思いますが。(40代、神経内科)
- ・妊婦にバルプロ酸は使いにくいことは周知の事実かと思います。(20代、救急医療科)
- ・薬剤科から情報提供があったので知っています、精神科医としては、双極性障害患者へのバルプロ酸投与が関心事です。(60代、精神科)
- ・バルプロ酸は、てんかん患者でも、妊婦への投与は慎重であるべき薬です。(50代、小児科)
- ・先日勉強会で知りました。てんかんにしても、BP治療にしても若年女性に対して、安易にVPAが使われている印象です。妊娠出産を考慮した薬剤選択が必要でしょうね。(30代、精神科)
- ・妊娠の可能性のある女性でバルプロ酸を使用せざるを得ない患者にはどんな用量でも葉酸を併用しています。(30代、精神科)

「その他」 31件

- ・そのアラートそのものは知らなかったが、妊婦にバルプロ酸を投与する際に催奇形性があるのは常識だし、抗てんかん薬として投与するのにリスク&ベネフィットがあることもアタリマエ。日本では片頭痛に対しバルプロ酸を投与することはそれほど多くないので気にするに能わず！(40代、脳神経外科)
- ・そもそも妊婦に対する抗てんかん薬の投与は慎重でなければならないのは常識ではないでしょうか？(40代、精神科)

・ ※調査方法

□期間：

2013年8月23日（金） ～ 2013年8月29日（木）

□有効回答：

2,854人（回答者はすべて、医師専門サイトMedPeerに会員登録をする医師）

□設問：

医師専用サイト MedPeer内の「ポスティング調査」コーナーにおいて、MedPeer事務局（運営：メドピア株式会社）より、以下の質問を投げかけました。

調査フォーム（設問文 抜粋）

2013年5月6日に、アメリカ食品医薬品局（FDA）より、アメリカ国内の医療関係者を対象に、胎児危険度分類の観点から妊婦への片頭痛予防を目的としたバルプロ酸の投与を禁止するアラートが出されました。その一方で、てんかんや双極性障害に関する、バルプロ酸投与における見解は、「妊婦の使用による薬剤の潜在的リスクがある一方、ベネフィットが得られる可能性がある」ととどまっています。

さらに今回のアラートでは、妊娠が可能な女性については、「バルプロ酸が本人の症状管理に必須な場合を除き、服用すべきではない」とも通知されています。

皆さまは、妊婦への片頭痛予防を目的としたバルプロ酸の投与を禁止するFDAのアラートをご存知でしたか。
以下の選択肢より適当なものをご確認いただき、皆さまのご意見をコメント欄にご入力ください。

■参考資料

<http://mtpro.medical-tribune.co.jp/mtpronews/1305/1305014.html>

※全文を閲覧するには別途ログインが必要です

<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm350684.htm>

1. 知っていた
2. 知らなかった
3. その他

【本件に関するお問い合わせ先】

メドピア株式会社 管理部 TEL : 03-6805-0345 / e-Mail : info@medpeer.co.jp

【記事掲載に際してのお願い】

- ・ 「医師専用サイト MedPeer 調べ」、であることの明記をお願い致します。
- ・ web 上での引用に際しましては、<https://medpeer.jp> へのリンクをお願い致します。

■ MedPeer (メドピア) とは - 2013年7月末日時点 -

MedPeer は、メドピア株式会社が運営する、医師専用のインターネットサイトです (URL: <https://medpeer.jp/>)。会員医師同士による情報共有サービス「薬剤評価掲示板」や、特定疾患治療に関するエキスパート医師による情報提供「Meet the Experts (MTE)」、有名臨床指定病院の所属医師参加のオンライン症例検討会「インタラクティブ・ケース・カンファレンス」などを MedPeer 上に設け、“臨床の決め手がみつかるとして、多くの医師に利用されています。現在の会員は 6 万人以上で、日本の医師の約 4 人に 1 人が利用するサービスです。また、「薬剤評価掲示板」では、約 1,700 の医療用医薬品に対して、25 万件以上の医師会員による処方実感、クチコミ評価が投稿されています。

以上